

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475000731
法人名	有限会社 ワークスクラブ
事業所名	グループホーム秋桜の里
訪問調査日	平成20年10月22日
評価確定日	平成20年11月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1475000731号
法人名	有限会社 ワーカーズクラブ
事業所名	グループホーム 秋桜の里
所在地	川崎市川崎区浅田2-17-20 (電話) 044-355-6373

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 22日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	7人	常勤 3人	非常勤 4人	常勤換算

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (9月22日 現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	第一クリニック、川崎医療生活協同組合京町診療所、泰生歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所はJR川崎駅からバス約20分の静かな住宅街にあります。平成14年12月に開所し、建物の1階は同一法人のデイサービスで、2階が当事業所のグループホームとなっています。  
 運営法人は高齢者の福祉と介護サービスに重点をおくデイサービス、グループホームの事業を営んでいます。利用者が住み慣れた地域で馴染みの関係を大切にしながら生活が継続できるように支援しています。  
 利用者は花見、地域のお祭りにはおみこしを見物し、5月にはしょうぶ湯に入り、七夕には自分の願い事を書き、横浜の三溪園にドライブに行き、クリスマス会を楽しむなど、元気に日々を送っています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘を受けた点の改善状況は、理念については、ゆったりとゆっくりを介護理念として追加しました。家族会を開催し、意見交換を行っています。職員の育成は、外部研修に参加の際は勤務シフトにも配慮しています。介護計画は、家族と連絡をとり、6ヶ月毎に見直しを行っています。重度化や終末期は、利用者にとり最善策を講じる方針が確立しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業運営者や管理者は、自己評価の意義を理解し、ミーティングで職員に伝え、職員が参画して話し合い、管理者と計画作成者がまとめて作成しました。今後、自己評価は、サービスの質の確保に活かしていくように努めています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は平成20年8月に第1回を開催しました。会議では事業所の運営内容や活動状況を報告し、意見交換を行い、理解と支援を得る貴重な会議となっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情や相談窓口は重要事項説明書に明記し、契約時に説明しています。年2回開催する家族会や家族の来訪時には意見・要望を聞いています。運営推進会議では意見交換や要望を話し合い運営面に反映するように努めています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者全員が町内会の会員です。地域の夏祭りには、おみこしの休憩場所となり、お茶やお菓子を振る舞い、交流を深めています。小学校のバザーに縫い物を出品したり、地域のこども110番として指定されています。また、中学・高校生が社会科の学習として職業体験に来訪し、ふれあいを楽しみながら、地域の方々と一緒に暮らしています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを追求し、尊厳を支えること」を事業所独自の理念としています。そして、「利用者中心の生活を守り、常に相手の立場に立ち思いやりを持つこと」を主眼とし、「ゆったりとゆっくり」を介護理念として、住み慣れた地域でなじみの関係を大切にしながら暮らし続ける事業所づくりを目指しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアーの出入り口に掲示するほか、職員は理念を携帯し、常に確認しています。また、日頃の会話やミーティングの中で話し合っています。入職時は事業内容、運営方針、そして理念についても説明し、周知を図り、理解を得るように努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が自治会に加入し、夏祭り、盆踊りに参加して交流を深めています。夏祭りではおみこしが事業所の前で休憩し、地域の方とのふれあいを持ちながら暮らしています。防犯のための「こども110番」に指定され、また、近隣の中学・高校生が社会科学習の一環として職業体験に来訪し、地域の方と協力しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業運営者や管理者は評価の意義やねらいについて理解し、自己評価票の内容を説明して周知を図っています。自己評価票は、職員間で話し合った結果を、管理者と計画作成担当者がまとめ、日頃の介護に活かすように努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成20年8月に第1回を町内会役員、民生委員、利用者・家族の代表、地域包括支援センターの方々が集まり開催しました。会議では、事業所の運営状況や行事内容を説明後、意見交換を行い、地域の理解と支援を得るための貴重な会議となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は機会あるごとに市役所の担当部署へ事業所の運営や実情、業務上の問題点などを報告し、助言や指導を仰いでいます。管理者は川崎市認知症介護実践者研修会に参加し、情報交換と指導を受けています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などは、家族の来訪時に声を掛けて話し合っています。コスモス通信は2～3ヶ月毎に発行し、行事報告や運営状況を家族へ伝えています。小口現金の取り扱いは、来訪時に説明し、領収書を手渡しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の担当窓口は、重要事項説明書に明記されており、契約時に説明しています。年2回開催する家族会や家族の来訪時には、声を掛け、意見や要望を聞き運営面に反映するように努めています。要望や苦情があればメモや申し送りノートに書いて対応し、サービスの改善に努めています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限となるように抑え、利用者への不安の原因とならないように努めています。職員の離職の際は利用者と一緒に「お別れ会」を行っています。新入職員は、早く日常業務に慣れ、利用者に溶け込むように、先輩職員が指導にあたっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は日常の仕事を通じて技能や知識を身につけていくO.J.Tを主体にしています。外部研修には常勤・非常勤を問わず研修を勧めています。研修希望者には勤務シフトを調整し、受講しやすいように配慮しています。受講後は研修報告書を作成し、ミーティング時に話し、共有化を図っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は、電話にて連絡を取り合っており、情報交換や事業所の見学をそれぞれ行い、お互いに協力関係を深めています。今後も近隣の同業者と連携し、日々のサービスや職員の人材育成に役立つ実践的な交流に心掛けていく意向です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>電話での相談を受けた後、本人・家族は事業所を見学し、サービス内容を把握しています。利用者・家族と話し合い、入所申込書に記入してもらい、面談しています。職員は必要に応じて、自宅を訪問したり、利用者の希望に応じて体験入所を1～2日行い、徐々に馴染み納得しながら利用に移っていけるように支援しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、お互いに思いやりを持って一緒に支え合って暮らしています。職員は料理の味付け、旬の食材、米のとき方などを教えてもらい、お互いに協働しながら、利用者が穏やかなゆったりとした生活ができるように努めています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に利用者の生活歴、性格や趣味の情報を基に、利用者の意向や希望の把握に努めています。職員は利用者のつづきやきや、外出の希望などを、介護・介助の中や日々の行動や表情からも汲み取るようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者と家族に本人がどのように暮らしたいか、要望を聞きカンファレンスを行い、職員が話し合い作成しています。家族の来訪時には介護計画について説明し、確認後署名をもらい、交付しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は安定していると6ヶ月毎に見直しをしています。状態が変化した場合や本人や家族の要望などにより介護計画作成担当者がケアカンファレンスを行い、随時見直しを行い、家族とも連絡を取りながら計画の見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の内科医が月2回訪問診療し、利用者は医療処置を受けることができます。理美容は月1回利用者の要望に応じて来訪しています。利用者の家族のお見舞いに付き添い、外出支援も行ったこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的には家族にお願いしています。家族が付き添いができない場合や緊急時は、付き添いサービスをしています。受診後はその結果を個人記録表に記入しています。かかりつけ医がない場合は事業所の往診内科医による訪問診療と看護師による健康管理・相談もできる医療体制をとっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合、家族、内科医、職員が話し合い、家族の要望により、できるかぎりの最善の方法を探るための話し合いをするように、入所時に取り決めていきます。これらの対応については、職員は共有しています。本人や家族に重度化した場合の対応の指針を定めた同意書を作成検討中です。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員から契約時に個人情報保護法の守秘義務の誓約書を買っています。職員は利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを損ねないように声掛けをしています。入浴の同性介助は本人の希望に応じています。利用者の個人情報の書類は書棚に保管しています。		個人情報の取扱いには十分に留意し、書類は、施錠のできる書庫に保管する等の工夫が期待されます。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは、その日の利用者の希望や体調に合わせてスケジュールを組んでいます。職員の都合や押し付けにならないように留意しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望をできるだけ取り入れています。利用者には料理の下ごしらえや調理を覚えてもらい職員と一緒にしています。配膳やお茶出し、後片付けも積極的に行い、職員と同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいます。また、誕生日の夕食も楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日曜日以外9～17時の希望する時間に入浴できるように支援しています。各人の体調や状態に配慮しながら、希望どおりに入浴できるよう支援しています。自立の方は一人で入浴し、散歩後の一日2回入浴を希望する方もいます。入浴の嫌いな方は声掛けを工夫しながら入浴できるよう配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は調理の下ごしらえ、配膳、後片付け、花の水遣り、洗濯物たたみ等、各々が役割を持って、日々出来る事をして暮らしています。日刊新聞を読む人、テレビも2箇所を設置し、利用者がそれぞれ自分の時間を楽しめるよう配慮しています。1階のケアセンターやデイサービスへ、自由に出掛ける人もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、本人の気分や希望に応じて、近くの商店街や公園へなるべく外出するように支援しています。散歩や買い物は、本人の体調に配慮しながら、希望に添えるように同行しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は利用者の安全を確保しながら施錠をしていません。1階にケアセンターとデイサービスがあり、全職員で見守りに努めています。個人の生活パターンを把握し、外出しそうな時は静止せず、職員が見守りながら同行します。居室の鍵は本人の希望に任せています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は平成20年7月に実施しています。訓練には、町内会長や民生委員に協力要請をしています。災害用の非常食として備蓄品の用意をしています。		地域の消防署の指導と地域の方の協力と自主的参加を得て、防災訓練・避難訓練を1階デイサービスの方と一緒に定期的に行うことが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養士からアドバイスをもらいながら、栄養バランスに配慮した献立メニューを一週間分大まかに決めていきます。利用者の普段の話の中や買い物途中で食べたい物を聞き、できるだけ採り入れるようにしています。食事量と水分量も十分に摂取し、個人記録に記入し共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はすっきりとして季節感のある飾り付けとなっています。テーブルやソファ、テレビを配置し、緑を多く飾り、生花もいけてあります。1階入り口の階段には利用者の作品や写真が飾ってあります。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し、その人らしい居室作りに心がけています。清潔で明るく、使い慣れた整理タンスや仏壇を飾り、個性ある居心地よい居室となっています。自立度の高い方は布団で休まれる方もいて布団の上げ下ろしがよい運動になっています。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 秋桜の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	川崎市
記入者名 (管理者)	管理者 森 貴子
記入日	平成20年9月22日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念が設定されている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は提示し、各職員が携帯もするようにしている。ミーティングなどを利用し、どのようにしたら良いのか？全職員で話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を行いご家族様には、ご理解を頂いているが地域の方には理念は浸透されていない。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ出し時や散歩・買い物時には、ご近所の方やお店の方と挨拶や世間話などを利用者様にも声を掛けて頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会の会員。お祭りの休憩所として場所を提供するなど、地域の行事に積極的に参加している。地域のことも110番の家として地域活動にも関わっている。ボランティアの受け入れもしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現在は、取り組みを行っていない。話し合いをし検討中である。		地域高齢者の方をお招きし、お茶など飲みながら交流の場を作っていきたい。近所の方々に気軽に訪問して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価・外部評価に関しては、意義の理解を深める為、会議やミーティングで運営者・管理者より全職員に伝え、全職員で取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	ご家族様とのカンファレンスやアンケートなど、定期的を実施し運営管理者より管理者・職員に迅速伝達し、サービスの向上に努めている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の研修に参加し、参加した職員は他職員に研修内容を伝えている。現在、生活保護者も受け入れており、市のケースワーカーと連絡を取り合っている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修に参加したり、運営管理者より学び得ている。話し合いの場を設け、必要な方には関係者とも話し合いを行い活用できるように支援している。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修に参加したり、運営管理者より学び得ている。虐待防止委員会を立ち上げ、会社全体で防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解除時は、利用者様・ご家族様に十分な説明を行い、納得した上でやっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に、利用者様に耳を傾け、声を聞き入れ対応させていただいている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に当グループホームで発行している秋桜通信や手紙・電話・来所時に暮らしぶり、毎月のおこずかいの使用用途をご家族様に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話・来所時などに意見等を聞くように全職員が心がけている。そして、家族会でも機会を設けている。ご家族様から頂いた、意見等を職員と話し合い、それらを運営に反映させられるように努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや会議の場でも、意見や提案を聞く機会を設け、反映させられるように努めている。反映した後も、話し合いを定期的に行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況変化に応じ、勤務時間帯の変更が生じる事を全職員が承諾している。勤務時間帯の変更については、話し合いを重ねて勤務の調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動や離職については、利用者様へのダメージを必要最小限に抑えるように十分考慮し、配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症実践者研修など、内外の研修に参加し学ぶ機会を作るように努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の研修やボランティアなどを積極的に受け入れている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>実際の取り組みは出来ていない。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の疑問や質問に対して多方面の知識や経験を伝授し指導している。各自の努力などを把握するように努め、向上心を持って働けるように日々職員とコミュニケーションを取るなど積極的に取り組んでいきたい。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人様に来所して頂き、ご本人様と直接話し、聴く機会を何度か設け、その方の思いなどを受け止めるように努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用開始前より、何度かご家族様とも話す機会を設けている。利用後も家族懇談会やカンファレンス等を定期的に、または状況に応じて迅速に行い聴く機会をつくり受け止めるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が、その時何が困っていて、何が必要なのか？他のサービス利用も含め、ご本人様等と一緒に本当に必要な支援をするよう努めている。		対応する職員が同様の見解や知識・思いを持てるように努めていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者様には、体験利用や宿泊などを行い、雰囲気慣れて頂けるように努め、利用者様・ご家族様が安心・納得した上で利用して頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事・洗濯などの家事を一緒に行ったり、他の時間も利用者様との会話などを大切にして関係作りを築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細な事柄も御家族様にお伝えし、より良い方法で支援できるようにご家族様・職員が共に利用者様を支えている関係を築き上げられる様に努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様やご家族様などから話を聴く機会を設けている。個々の関係を職員全員が理解をし、そのご家族の良い関係を保っていけるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や知り合いと電話で話したり、来所したり、座談会などに行ったりできるように工夫・対応している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を全職員が把握し、配慮している。職員が間に入りながら、利用者様同士が関わりを持ち・支え合えるように努力している。孤立しないように、職員も一緒に話しなどに参加し、輪に入れるようにするなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は、年に何度か手紙のやり取りのみになっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団としてではなく、個として一人ひとりの思いなどを希望や意向に沿うように努めている。		業務優先・職員都合で利用者様に接してしまわない様に、チームワーク・ミーティングの内容など再度、見直し相互確認をしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前後に、ご本人様やご家族様又は利用されていたサービス関係者から話を聞いたり、書類などで把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	少しの変化にも気付けるように気を配り、総合的に把握するようにしている。		職員個々が更に見識を深め、利用者様の立場になり、尊重の気持ちを持って接する事が出来ように日々努力していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で話し合い、その後ご本人・ご家族様や関係各所と話し、作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化により、すぐには計画書作成の書類にまとまる事は出来ないが、現状に即した対応は行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録内容に、職員間で記載のばらつきがあるが、情報としての共有は出来ている。現在、介護計画の見直しに繋がるような記録の書き方など職員間で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の協力を得ながら、又、ご家族様の支援の無い方には、職員が対応しながら、外出支援を行ったり要望を確認しながら柔軟に対応している。(例えば、長男様の入院のお見舞いの外出支援等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の実施		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと直接協働は行っていないが、権利擁護事業である金銭管理サービス等、利用し長期的に金銭の保全を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理を実践してもらいながら、総合的に健康管理を行ってもらい、家族の意向を取り入れながらかかりつけ医に対して事業所としてパイプ役を努めながら関係を築けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	実施していない。(認知症より精神疾患が重い方の専門受診は行なっている)		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診医療機関のナースと、往診外での病状の変化や健康状態の変化の相談を行い受診や対応の相談を行なっている。ケアマネがナースである為、日々の対応を行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、職員が病院に行き情報提供を行い、早期退院に向け主治医に対してグループホームで対応可能な事も含め病状等の情報交換を行い、サマリー等の依頼を実施している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしての方針は、現在検討中である。ご利用者様及びご家族様の意向を重視しながらグループホームでのターミナルケアが可能であるか主治医と相談しながら個別性を重視し決定する方向。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療と介護の対応の違いの中で、医療行為の必要性を見極め、自然な形でご利用者様に苦痛の無い形での対応でのターミナルケアの実施に取り組んでいる。又、書類等の検討を行っている。		全利用者様の終末期についての支援のあり方を作製していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームへの入居時には、ご家族様、ケアマネとのインテークから入居面談時のアセスメント、入居当日を含め日常の生活のあり方を確認し、継続できるよう、情報交換を行い、リロケーションダメージによる認知症の進行の予防にも努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛けなどには、十分に気をつけるようにし、記録では名前を記入しないように心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に、自己決定して頂けるようにその方に合わせた声掛けなどをし、納得をした上で支援するように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合や業務優先する事なく、ご利用者様のペースや希望に合わせた暮らしをして頂けるように、職員同士気を付けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪を結い直したり、ブラシでとかすなど、日々している。希望があれば、理容・美容室へ行けるようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何が食べたいか？お聞きするようにしている。味噌汁の具などは、順番にその方の好きな具にするなどしている。準備や片付けは、一緒に行い、教えていただいたり手伝って頂きながら行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師から許された範囲以内で、ご本人様の嗜好を楽しめるように支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンやその方の習慣を活かして、声掛けやトイレ誘導を行なっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は安全面などから、9:00から17:00頃までと決められているが、無理強いすることなく、希望など聞きながら気持ちよく入浴してもらえるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室内の温度管理などを行い、快適に休めるように心がけている。昼寝などもして頂く時間を設けている方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や散歩、または歌を唄うなど、個々の好きな事を楽しんで頂けるように支援している。その方の持っている力を日々、活かせるようにその方を支える事を念頭に入れている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などに行く時は、その方のお財布(おこずかい)を持参し、ご本人様が欲しいものを購入して頂けるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、その日のその方の気分や体調を考慮しながら、希望に添う形での外出支援を行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に何度かは、参加可能であるご家族様も交え外食行事を行っている。個別外出もご本人様の希望を聞き、取り組んでいる。(誕生日に上野やお寿司屋さんに行くなど)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、電話や手紙などのやり取りをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様や知人の方が、いつでも来所して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、全職員で学び・理解を深めている。身体拘束をしないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は閉めずに開放している。各居室には、鍵を設置しているが、ご本人様がプライバシーを守る為にかかる場合はあるが、職員本位・都合ではかける事はない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者様の所在や様子を把握し、職員同士コミュニケーションを取り、安全に過ごせるように心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いを注意する物に関しては、棚などにしまうなどしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた事故防止については、会議や申し送り時などに話し合い取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時とマニュアルには目を通してはいるが、訓練は行っていない。		定期的に訓練を行い緊急時に備えたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施をし、町内会長や民生委員に話している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン作成・更新時などに現状で起こりえるリスクをご家族様に説明し、対応策を話し合っている。状況が変化した場合は、すぐに対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック・水分摂取・排泄状況など毎日記録に付けている。体調や心情の変化などは、申し送りにて全職員に伝え対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、ご利用者様個別に管理し、処方箋を全職員が目を通し、理解するように努めている。質問や疑問は看護師に聞いたり、医師に確認するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事時に繊維質のものを取り入れたり、散歩や適度な運動を取り入れ排泄チェックを毎日記録している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けなど一人ひとりの状態に応じ、口腔内の清潔を保てるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、変化するなかで、食事・水分量が確保できるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種をご利用者様・職員全員が実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食材の日付のチェック・台所・冷蔵庫・電子レンジや調理用具等のアルコール消毒をして衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の掃除や片付けなどをご利用者様と職員が一緒に行い、花壇に花を植えたり、水やりや手入れなどを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各季節の花や利用者様と一緒に作った物を置いたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろげたり、居室以外で一人になれる場所を設けたり、思い思いに過ごせるような場所を工夫し作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様・ご家族様と相談し、使い慣れた家具などを持参して頂いたり、好みのものを買いに行ったり、ご家族さまの写真を飾るなどして、ご本人様が居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は、居室の窓を開け換気するようにしている。 17:30頃には、居室の温度を調整し夜間快適に過ごせるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物を整理し、安全かつ身体機能を活かして生活が送れるように努めている段階		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの手続き記憶を活用できるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターなどを利用し、利用者様が植物を育てている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全職員が常にご利用者様と向き合い、必ず意思確認をしている。

ご利用者様一人ひとりのペースを大事にし、時間に追われること無くゆとりを持ち生活して頂いている。

ご利用者様の安全を最優先に考え、個人の行動を抑制することなく見守りなどを行い、ご本人様が納得するまで職員は向き合い時間を共有する。